

長野上田高等学校北海道同窓会会報(第3号)



発行日 2016年9月16日

◆ 第2回定期総会開催の報告

上田高等学校北海道同窓会の第2回総会は、平成28年5月28日(土)に札幌のKKRホテル札幌で開催され、13名の会員が参加しました。12時からの総会では、清澤通俊会長(64期)の挨拶に続き、27年度活動報告・会計報告、28年度活動計画案・予算案を承認。また、本村幹事の退会に伴う役員補選では中村今朝良さん(65期)と杉山孝治さん(66期)が選ばれました。引き続き行われた記念講演では43期の櫻井武さんの波瀾万丈の人生を振り返る話を聴き、懇親会では故郷上田や母校の話で盛り上がり、最後は恒例となる校歌斉唱で無事終了しました。尚、今年は十勝で地区会員との交流会を行うことになりました。

平成27年度活動報告

平成27年度は北海道同窓会の初年度であり、事業計画に沿って会員の交流の場作りの諸活動に取り組んでまいりましたが、会員の皆様のご協力を得て概ね計画通り実施することが出来ました。以下、項目ごとに報告します。

1. 会員の現況

45名で発足しましたが、期中の大学進学等の増加2名、離道による減少2名で、期末現在の会員数は45名です。なお、学生会員は6名です。

2. 会議の開催

(1) 設立総会

平成27年5月30日(土)に札幌市内のKKRホテル札幌で開催。会員18名が出席。設立趣旨書、会則、役員体制、活動計画および予算を決議。

(2) 役員会

第1回 平成27年8月22日開催。役員役割分担と観楓会の実施計画を協議。

第2回 平成27年12月2日開催。観楓会の報告と会報第2号の編集を協議。

第3回 平成28年3月30日開催。第2回総会日程と会議次第を協議。

3. 決算監査

平成28年5月6日に実施。

4. 観楓会

平成27年11月2日に、イタリアレストラン「ダイニング・イル・ネージュ」で開催。参加者12名。

5. 会報の発行

平成27年度 収支決算

科目	予算額	決算額
<収入の部>		
年会費	33,000	33,000
総会会費	87,500	85,800
観楓会会費	—	60,000
雑収入	30,000	33,703
収入合計	150,500	212,503
<支出の部>		
同窓会設立経費	7,674	7,674
総会経費	100,000	90,040
観楓会経費	—	54,000
会報発行経費	10,000	4,349
郵送代	20,000	14,606
予備費	12,826	0
支出合計	150,500	170,669
<当期収支差額> (次期繰越金)	0	41,834

(注)前払い分を除く年会費は24,000円です。

創刊号 平成 27 年 7 月 10 日発行。設立総会の報告、役員挨拶、本部理事長祝辞、皆さんこんにちは～中西悦子さん (56 期)・吉川友二さん (81 期)

第 2 号 平成 28 年 2 月 22 日発行。観楓会の報告、同窓会本部通信、皆さんこんにちは～増田武夫さん (61 期)・松林洋さん (90 期)・北澤多喜雄さん (73 期)・松澤直樹さん (108 期)

平成 28 年度活動計画

1. 活動の方針

2 年度目の活動項目に着実に取り組み、会員相互の交流と親睦を図ることを目指します。また、会員拡充対策に取り組みます。

2. 活動項目

- (1) 第 2 回総会の開催 5 月 28 日 (土)
札幌市 KKR ホテル札幌
- (2) 地区会員訪問 (新規) 7 月中旬～8 月
1 泊 2 日で、足寄町で牧場を経営する会員・吉川友二さん (81 期) の“ありがとう牧場”を見学し道東の会員、同窓生との交流を図る。
- (3) 観楓会の開催 11 月
- (4) 会報の発行 年 3 回程度 (夏、秋、冬)
- (5) 会員拡充の取組み (新規) 2～3 月
次回総会に向けて、未加入の同窓生に入会を呼び掛ける。

平成 28 年度 収支予算

科 目	前年度実績	予算額
<収入の部>		
前期繰越金	—	41,834
年会費	33,000	29,000
総会会費	85,800	60,000
観楓会会費	60,000	—
雑収入	33,703	30,006
収入合計	212,503	160,840
<支出の部>		
同窓会設立経費	7,674	—
総会経費	90,040	70,000
観楓会経費	54,000	—
会報発行経費	4,349	10,000
郵送代	14,606	30,000
予備費	0	50,840
支出合計	170,669	160,840
<当期収支差額> (次期繰越金)	41,834	0

(注)①会員構成は、学生 6 名、80 歳以上 7 名、その他 32 名 (前払い者を除くと 29 名)、計 45 名です。

②観楓会関係および新規活動の地区会員訪問関係の収入・支出は案内経費 (郵送代) を除き参加者負担ですので、今期の収支予算から除くものとなりました。



後列 北澤 (73 期)、西澤 (68 期)、清澤 (64 期)、大谷 (65 期)、中村 (65 期)、本村 (69 期)、杉山 (66 期)、香掛 (63 期)

前列 矢島 (59 期)、菅沼 (48 期)、桜井 (43 期)、平尾 (51 期)、福田 (64 期)

◆ 第2回総会記念講演 「わが人生」 櫻井武さん（43期）

ご紹介をいただきました、上田中学43期の櫻井です。「わが人生」という大変なお題をいただきましたが、思いつくままお話ししたいと思います。

本籍は佐久市中込ですが、生まれは長万部町静狩です。静狩小学校6年生になって上田中学を受験することになりましたが、受験に関する情報は全く無く、担任の先生はどうせ田舎の中学だからと満足な受験指導もしてくれませんでした。先生は、後で先輩の教師から信州でも最難関の中学校と聞かされ驚いたとのこと。昭和56年4月に私が札幌東警察署長を拝命した時、その先生が函館からお祝いに来てくださり、難関の中学によくぞ合格したと、40年後になって褒めていただきました。

私が受験した昭和14年は従来の受験制度の最後の機会、学区制など無く全国どこからでも受験できました。この時の上田中学の競争率は2.4倍でした。担任の先生はろくに調べもせず受付前に願書を提出したので受験番号は1番で、当時受験番号1番で合格した者は無いと言われて驚きましたが、無事合格できました。

中学の5年間は小諸郊外の母の生家に寄宿して、小海線の乙女という無人駅から汽車通をしました。小諸は私にとって第二の故里です。2年生になった時に山岳部に入って植物の採集観察に精を出しました。浅間山には10回以上も登り、昭和17年4月18日の米軍による東京爆撃の日も浅間に登っており、下山して、小諸の町中が大騒ぎしているのを見てびっくりしました。植物の採集観察を通じて山野草の名前もたくさん覚えることが出来、このため公園財団の「緑花試験」で1級を4回も取得することが出来ました。

時代は戦争の最中でしたので、春、秋の農繁期には出征軍人の留守宅の勤労奉仕もやりました。上田中学の場合は六文銭の幟を立てて農村に出掛けました。学校では授業として軍事教練も盛んに行なわれ、冬の太郎山を腰までの雪を踏み越えて菅平まで出て、銃を担ぎスキーを付けての演習も行われました。こんな時に“赤鬼騒動”が起きました。

昭和18年春、後に赤鬼と云われて毛嫌いされた、粗野粗暴で常識外れの配属将校が着任しました。彼は、いつも赤革長靴に白手袋をして校内を闊歩し、生徒を見つけると大声で怒鳴ったり、時には難癖を付けてぶん殴ったりしていました。朝礼の時に生徒を殴りつけ、あごの骨を折る事件もありました。当時、配属将校の権限は絶大で、彼の意見が進学にも反映されるということで校長以下の教員も触らぬことにして、ますます増長させました。

5年生の秋に野外演習があり、屋代まで行軍しましたが、配属将校は騎馬で参加しました。途中休憩の時に、彼は生徒の前を乗馬で颯爽と駆け抜けていきましたが、どうしたはずみか落馬してしまいました。軍帽は田んぼの中に飛んでしまうし、サーベルは曲がって抜けなくなり、生徒一同は手を叩いて大騒ぎして喜びました。その翌日の朝礼後、配属将校は私たちのクラスの生徒の態度が弛んでいると言って、授業そっこのけで教練を始めました。彼は昨日落馬して面目を失っているので教練は猛烈を極めました。グラウンドの真ん中に立って、「集まれ」と号令をかけると生徒はその前に3列縦隊で整列する。整列が終わると「分かれ」と号令をかけ、自分は向きを変えてまた「集まれ」と号令をかけ、生徒は駆け足で回り込んで整列する。号令をかける方は殆ど動かずに向きを変えるだけですが、生徒はその都度駆け足で回り込まなければならないのでたまったものではありません。何回か同じことを繰り返しているうちに、誰かが後ろ向きになろうとした配属将校に足払いをかけたのでした。不意を突かれてドッと倒れた配属将校を生徒は踏みつけて駆け抜けます。配属将校は立ち上がってまた号令をかける。生徒はまた足払いをかけて転ばす。こんなことを何回か繰り返すうちにだんだん殺気立ってきました。見かねた学年主任の十亀先生が止めさせて生徒は教室に入りましたが、配属将校は収まりません。教室まで押しかけて軍刀を振りかざして「出て来い」と怒鳴り、生徒はバリケードを作って教室に立

てこもり囃し立てる。こんな騒ぎが続いてなかなか収まらないのを見かねた上田中学卒業の先輩である竹内敬太郎先生が来て、生徒を説得してやっと収まりました。しかし、現役将校に対する暴行事件なので後日憲兵が来て調査する騒ぎになり、その結果、配属将校は軍隊に帰り、責任をとって教頭先生が辞任し、生徒も何人か自宅謹慎の処分がなされて事件の決着が図られました。この騒ぎの直後の昭和 18 年 12 月 1 日、私は海軍甲種飛行予科練習生として三重海軍航空隊奈良分遣隊に入隊しました。しかし、「あの事件の首謀者は櫻井で、扇動して大騒ぎを起こし、自分は海軍に逃げ込んでしまった」との噂が流布していたと、後々聞かされ驚きました。当時の学校は予科練に入隊した者も 5 年生は 3 月まで在籍していたとの扱いになっており、謹慎処分の中に私の名前があったのかもしれませんが。

予科練入隊後 2 か月位経った時、数学、物理、化学のテストがあり、私は 7 千人の練習生のうち 2 位以下を数十点も離しての断トツの 1 番となり、分隊長以下下士官達をびっくりさせました。

19 年 8 月頃震洋特攻隊要員の募集があり、早速志願しました。震洋とは、長さ 5m のベニヤ製のボートに 250kg の爆薬を搭載して高速で敵艦船に体当たり攻撃する特攻兵器です。長崎県大村湾の川棚で特攻訓練を受け、20 年 2 月、香港に出撃しました。この直前、北海道の父に「本も買えない処に行くのでいくら読んでも飽きない本を送ってくれ」と手紙を出したところ、父からは「代数」、「幾何」と「幼学要綱」という本が送られてきて、私はこの 3 冊を持って香港の特攻基地に行き、暇々に数学の問題を解いて楽しんでいました。私はこの基地から、戦後富山の医科大学の副学長になられた京大出身の田辺正英中尉と出撃しましたが、目標の英国巡洋艦が発見できず、二人とも無事帰島しました。香港の特攻部隊で出撃したのは私と田辺中尉の二人だけでした。

昭和 20 年 8 月 15 日に終戦になりました。この時、われわれ特攻隊は南シナ海を活動の場としていた海賊、中国軍閥の「甘志遠」軍に合流しようとしたのですが、特攻隊の行動に不審ありと香港海軍の司令部が先手を打って、特攻隊の全士官を香港本部に集めて拘束してしまい、海賊への合流は実現しませんでした。この海賊の最高顧問は、長野県伊那出身で、戦後明大野球部の名監督と讃えられた島岡吉郎さんでした。

海賊になれず、私たちは英軍の捕虜になってしまいました。下士官兵はジュネーブ条約で捕虜として労役に服することになりましたが、中学で習った英語が随分役に立ちました。ある日労役に出た時、休憩中に英兵から煙草をくれと言われて渡してやると、その煙草を見て「黄色いシガレットだ、ジャストライク モンキーシガレット」とか「日本人の顔も黄色だから、日本人はモンキーも同じだ」と笑っています。昼食に紅茶が出た時、英兵は紅茶の香りを楽しんでいます、日本人にはさっぱり甘くありません。そこで私が「プリーズ モアー シュガー」と言うと、びっくりして砂糖を足してくれ、それからは悪口を言わなくなりました。当時 19 歳でしたが、階級的には海軍上等飛行兵曹で下士官兵では最上級でしたので班長を務め、ブロークンの英語を使って英軍と折衝し、労役に服する班員にいかにも楽をさせるかに気を遣いました。私には英語の勉強にもなりました。

昭和 21 年 2 月に捕虜から解放され、香港から輸送船で鹿児島に着き、貨車、客車を乗り継いで小諸に。駅から夜道を歩き、中学時代 5 年間お世話になった母の生家に帰ってきました。家の門を入ると、2 歳年下の従妹が雨戸を閉めているところでしたので、「ただいま！」と声を掛けると、「キャー！」と悲鳴を上げて入ってしまいました。少し間をおいて叔父が出てきて、頭のとっぺんから足の先まで見て、「オー、帰ってきたか」と云って家に上げてくれました。その頃、戦死した軍人が幽霊となって家族の前に姿を現したとの話が多く聞かれたため、従妹は私が幽霊になって帰ってきたと思ひびっくりしたとのことでした。

小諸の家で休養して、母の待つ北海道の古平に復員しました。そこで小学校の教員をしました。一人で 3 クラスを受け持ち、ところどころ墨で塗りつぶした教科書を持って教壇に立ちましたが、半年で GHQ の指令

により教職追放になりました。

この時の駐在所のお巡りさんの勧めで警察官になりました。警察には35年間勤続して、この間釧路方面本部総務課長、道警本部生活課長の他、天塩、名寄、江別、東警察署と、4つの署長を務めました。この功労により、平成22年の秋の叙勲で双光瑞宝章を受章し、家内ともども皇居に参内して拝謁の栄を賜りました。警察官退職後は20年ほど民間会社に勤め、その間、町内会長をさせていただき、また、近くの子どもたちを集めて剣道の指導もしました。

中学時代には教員と警察官、軍人にはならないと決めていましたが、この全部をやりました。生まれ変わって何をやるかと聞かれたら、教員か警察官か軍人をやると言いたい。しかし、教員になるなら、1年生から6年生まで一クラスの僻地校の先生をやりたい。警察官ならば、これも僻地の小さな集落の駐在所で、テレビで大滝秀治が演じた「うちのホンカン」のような住民の中に溶け込んで勤務したい。軍人の場合は、これからはあり得ないことかもしれないが、連合艦隊司令長官になり、巨大艦隊を従えて7つの海を駆け巡ってみたい。

以上、思いつくままにお話ししました。皆様のご理解を得られたかどうか判りませんが、講演指名に対するお応えとします。ありがとうございました。



予科練時代の櫻井さん



講演中の櫻井さん

◆皆さんこんにちは!! 同窓生からの近況報告



やりたかった事と老化防止 68期8組 西澤伸志北海道岩見沢市

50歳半ばに、友人の訃報が届き、自分にも順番が来ることに気がつきました。「やりたかった事をやっておかなければ、しかも学習能力の終わりが来る65歳までに、ある程度のレベルに達し得る事柄」と考え、ピアノとテニスを始めました。今回はピアノについてお話し申し上げます。

女房が嫁入り道具にピアノを持参しました。容易に習得できる曲を尋ねると「エリーゼの為に」でした。「毎日一小節ずつ弾けば可能」といわれるも、弾く度に指が異なり、さらに途中から両手演奏となりお手上げで、そのまま20年以上放置でした。50歳半ばに、「ナビ付きの電子ピアノ」を見つけました。楽譜が読めなくても、点灯した鍵盤を押すと、曲になり、指番号も液晶画面に表示されます。ようやく指を固定でき再現性が得られました。電子ピアノで練習中、楽譜は両手、あるいは右、左の手で弾く順番を記載したデータと気がつきました。そこでピアノで試すとメロディが出て来るではありませんか。うれしい。毎日3時間、半年ほど独りで練習しましたら、「完成の域」に達しました。お酒を飲んで、気持ち良く弾いておりますと、「下手くそ、楽

譜を見て弾け」と家族の言葉が飛んできました。地元の北海道教育大学鍵盤科の「市民を対象とした授業の公募」があり、参加しました。最初の指導で「3回繰り返す所が2回しか弾いていない」等の指摘を受けました。数回の指導の後「12月に教授の前で演奏」と告げられました。担当の女子学生さんの熱い気持ちに背中を押され、勤労感謝の連休は一日中練習しました。夕方には右小指が痛み、指が開かなくなりました。演奏会は、緊張で頭が真っ白になるものの、指は勝手に演奏し続け、90小節で我に返り、最終の *morendo* を表現できました。その後3人の学生さんに7年間指導頂きました。皆、カワイ等の資格をお持ちでした。5年目に、「後2年で自由に弾く事が出来る」と励まされました。64歳から再び独習ですが、難解な部分はYouTubeのレッスンは役立ちます。昨年から Debussy のアラベスク第1番に挑戦中です。「還暦以降から始めた人は“エリゼの為に”を最後まで弾き通す」がピアノ教室の目標といわれています。還暦手前から始めた私は年3曲ずつ新曲に挑戦しております。東御市の実家には電子ピアノを送り、帰郷した際も毎日練習しています。外来で患者さんに、「ピアノは老化防止のため弾いている」と申し上げても嘘に聞こえない年齢になりました。

北海道に悔いなし

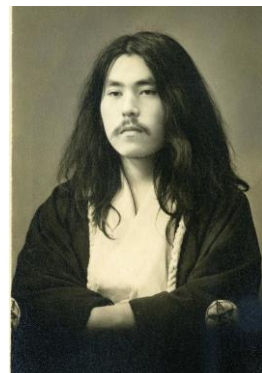
65期 大谷 文昭



卒業よりほぼ50年、万感の想いです。父は屋代、母は上田市横町の出身。4人兄弟(兄2人、姉1人)の末っ子として愛知県で生まれました。旧制長野中学から上田蚕糸専門学校(現在の信大繊維学部)を出た父が当時、名古屋近郊の紡績会社に勤めていたからです。その定年を機に祖父が残してくれた上田市染谷台(今の材木町2丁目)に家を建てました。丁度春5月、小生転校試験を受け合格、一年生として上田高校に入学しました。子供の頃から夏休みには必ず母の生家に里帰りしており従兄弟達も殆どが信州なので何の違和感もありませんでした。上田高校は校則らしい校則もなく旧藩主館跡に立つ塀に囲まれた

風情あるすばらしい高校でした。授業も教室でクラス単位で受けるのではなく、各々の教科棟の教室で受けるという大学のようなシステムでした。したがってホームルームでのクラスよりも他のクラスで仲良くなる機会の方が多かった。先生も人格者揃いでした。

さて、北海道には次兄の強いすすめ(本人はあこがれたものの試験に落ち鹿児島大学に行った)があり、一浪して北大水産学部に入りました。昭和24年のベビーブームに生まれ、入学した昭和43年は第二次学生運動の幕明けの時でした。当時は札幌まで信越本線、東北本線、青函連絡船、函館本線を乗り継いで約30時間かかりました(兄は鹿児島から40時間かかっていた)。また、兄は自分もそうであったので親のスネをかじっている私に特急に乗ることを許さなかったので、本年の北海道新幹線の開通は、その点、感無量のところがあります。青函連絡船で食べた電火焼と称した”イカの姿焼き“小原商店の”ガラナ“(実はコーラよりも高い)、初めて生で食べた”甘エビ“のうまさ、大自然の中のジンギスカン、澄んだ青空の下で食べるアイスクリーム。それに何より北海道の人の優しさ、大きさ、大地の広さに感動。全国三大寮歌のひとつといわれる”都ぞ弥生“のもと、時代錯誤ともいえる長髪、弊衣破帽、放歌高吟、唯我独善の応援団に入りました。入学するや、今までの抑圧より解放され、紫煙と称したタバコを吸い、弱いながらも酒を飲み、麻雀、ビリヤードの世界にどっぷりとつかりました。また、全国より集まった応援団のメンバーは本当に純な人ばかりでしたが、他からみれば奇人・変人の集まり。でも心優しい人達でした。不純・不正を嫌うこの応援団にいて、私も多少、清くやせがまんすることを覚えました。その当



時流行していた”ダンスパーティー、合コン、代返“、私は一回の経験もありません。学校へ行っても生協で飯を食うだけでした。但し応援団の行事である寮歌祭(いまだに恵迪寮は毎年一回作っており、全国唯一の存在)、小樽商大との定期戦、旧七帝大戦の応援だけは一生懸命しました。入って2年間、髪は一度もきらず、高校時代の学生服あるいはボロの着物、冬でも素足、高下駄でした。しかし、毎日が楽しく最高でした。正に青春謳歌。そのため4年間でいいのに6年間も学生生活をやりました。そして、地元の会社に就職、そのまま北海道札幌在住となりました。父母の郷里を忘れたことなどありませんが、今となっては北海道が”ふるさと“です。以来上田高校北海道同窓会の万年幹事として現在に至っています。「北海道を真に愛する人は、実は北海道以外の人達なのです」。在道50年、好き放題してきました。多少の苦勞、挫折を味わいました。我が人生に悔いはあるも、北海道に悔いなしです。

近況報告

48期 菅沼英二 (酪農学園大学名誉教授)



最近、入手しました立派な「上田高校百年史」の中の一枚の写真が「上中」時代の記憶を甦らせてくれました。それは、「第一回学芸会(昭和21年11月)」で「宗教班」が「レ・ミゼラブル」を演じた時の写真です。そこにいる12人中、5名が後にキリスト教の牧師になっているのです。

登家勝也(5年生)、清水恵三(4年生 第3代同窓会会長の林貞三氏 次男)、島津敬一(4年生)、私 菅沼英二(3年生)、大澤務(2年生)。「上中出身の5人の牧師たち」(2002年出版)の小冊子で紹介されました。「上中」には少年たちを育てる精神的土壌があり、それぞれが優れた先生方に出会っているのですね。

私は「世界史」の担当の清水次郎先生(後に13代校長になられた)の授業が面白く、世界史に興味を持ちました。そして、その延長線上に今日の私の「旧約聖書の伝承史」の研究があるのだと思います。上中、上田高校で学べたことを感謝しています。

高校卒業後、東京神学大学大学院を経て、関西で2年、東京で8年、計10年間「キリスト教会の牧師」として務めた後、英国エジンバラ大学大学院へ4年間留学致しました。

ローマ・カトリック教会の第2バチカン公会議(1963-1965)でローマ法王ヨハネ23世が、カトリック教会とプロテスタント教会はお互いに歩み寄り協力するように、その第一歩として「両教会の共通の聖書(Common Bible)をつくるように」と宣言されました。「カトリック教会・プロテスタント教会・世界聖書協会連盟」の代表者たちはそれを承認し、日本もそれに協力することとなり、それぞれ聖書の翻訳者を任命しました。

私は旧約聖書翻訳委員の一人に任命され教会を辞し、聖書翻訳の準備のため、英国エジンバラ大学へ留学致しました。4年間の留学の後、1971年4月に北海道酪農学園大学に赴任して来ました。

当時の大学は、大学紛争の真最中。しかし、学生たちの愛校心は強く、大学の機具一切を痛めることは無かったのですが、ある日、江別警察署から電話連絡があり、学生を引き受けのため警察署へ行きました。後に分かったのですが、署長さんは櫻井武さん(上中43期)と知り、奇遇を感謝いたしました。

北海道での働きと生活に、上田高校北海道同窓会との絆をもつことも大切と思い、努めて参加させて頂いております。

北海道オイスカの会では、平尾三郎さん(51期)にお会いし、北海道Air DO二代目社長に滝澤進さんが赴任してこられ、その年から経営は黒字になったことは素晴らしいことでした。「全日空との共同運航」方式の知恵の賜物ではなかったでしょうか。滝澤さんは、同窓会には必ず出席して下さり、感謝でした。

酪農学園大学へ上田高校の卒業生が進学してきたことを知った時は嬉しかったですね。女子学生が上田高校から入学して来たとき、上田高校は男女共学になったことを知りました。

1992年に北澤多喜雄先生（73期生）が酪農大獣医科の薬理学担当で来られ、教授会からの帰路、「先輩」と声を掛けられてビックリ。北澤先生との出会いでした。私のラテン語の自主ゼミには、一時、薬理の研究室の学生ばかりだったことを思い出し、不思議な巡り合わせと思います。

1973年大学紛争終結後、北海道アルバータ酪農科学技術交流協会が設立され、アルバータ大学と酪農学園大学との国際交流が三本柱で行われました。①教育者・研究者、②学生、③酪農青年、25年間で（1973 - 1998）246名の派遣受け入れを致しました。

会長 佐藤貢 先生（75才 - 100才）、常任理事、事務局長菅沼（43 - 68）で共に引退致しました。引退後、江別市国際交流推進協議会を設立（1996）、今年2016年には20周年記念式典を開催いたしました。

上田高校北海道同窓会が設立され、ますます成長発展されますように祈ります。

◆ 地区会員との交流会の報告 2016年8月20日 - 21日

（十勝地区、61期増田武夫氏、81期吉川友二氏を訪ねて）

73期 北澤多喜雄

28年度の総会で提案了承された「地区会員と交流の場をもつこと」の第一弾を8月20日と21日におこなった。企画では、札幌地区の会員が道東地区を訪ね61期の増田武夫さん（幕別町）とともに81期の吉川友二さん（足寄町）の「ありがとう牧場」を訪ねチーズ作りや牧場を見学したのち、近くの芽登温泉で宴会を行い交流するというものであった。

8月20日、前々日の台風が道東に被害をおよぼし、足寄町でも冠水したところがあるという不安材料はあったが、吉川さん、芽登温泉に確認し問題なしとの声を聞いて出発することにした。朝、9時に新さっぽろ集合、札幌地区からは清澤、沓掛、福田、大谷、杉山、北澤の6名が2台の車に分乗して道東道を使って一路、足寄町を目指した。途中では雨も降り出しパッとしない天気でした。12時近くに足寄町に到着、吉川さんおすすめの食堂で昼食（ひつじカレーやパスタ）をとったのちに、「ありがとう牧場」に向かいました。雨が強くなり道はどんどん山の中に入って行き、本当に牧場があるのか不安になってきましたが、チーズ工房の看板を頼りに午後2時近くに牧場に到着しました。この牧場で増田さんそして吉川さんと顔を合わせて少し休み、手製のアイスクリームと牛乳をいただいてから職人の方に教えていただきチーズ作りを体験しました。牛乳から乳酸菌とレンネットで作ったカードと呼ばれる塊を温めた塩水中で固めていく作業を体験しチーズが完成しました。皆で少しずつ試食しましたが手作りで新鮮な感じがしました。その後、牧場内と搾乳を見学しました。牛は、放牧されているということもあり、ストレスがないのかあまり病気にはかからない、また牛乳も牛が出す分だけを搾っているということでした。病気が少ないのはストレスが少ないためと考えられ、まさに人間にも当てはまりますね。その後、芽登温泉まで車で移動して午後5時近くに到着。この温泉は道道からさらに枝道を2km位入った川沿いにある一軒宿で折からの雨により宿の前の川（ヌカナン川）の水は濁り、水位も上昇していました。大丈夫かなと一抹の不安を持ちながらも源泉かけ流しの温泉に入りのんびりしました。ただし、増水したために使用できなくなっている露天風呂もありちょっと残念に思いました。その後、到着した吉川さんも交えて午後6時半からビールを飲み、しゃぶしゃぶ、刺身などの宴会で大いに場は盛り上がりました。ところが食事が終わりに近づいた午後8時位に宿の人から温泉の前の川が氾濫する可能性があるので「避難指示」が出たとの連絡があり、すぐに荷物を持ち避難を開始しました。この時、宿の前の橋はすでに川の水が溢れて水溜りができ危険な状態になっていました。しばらく各自の車の中で待たされた後に手配されたマイクロ

バスが到着し乗ってきた車は安全な場所に置いたまま避難所（芽登生活改善センター）に向かいました。避難所に向かう道も一部冠水しており、通行可能かどうかの見極めに時間がかかり（30分程度）、避難所には午後10時すぎに到着しました。20畳程度の和室が交流会参加メンバー（8名）の寝場所としてあてがわれ、一人当たり毛布が2枚と飲料水一本、保存食（パン）が1缶支給されました。この後は、特にやることもなく、静かに床に就きましたが、枕がないこと、畳の硬さなどで十分な睡眠がとれませんでした。

翌朝は皆、午前5時にはすでに目が覚めていましたが、外は相変わらずの強い雨降りとなっていました。町からのアナウンスは特になく、皆、思い思いに横になったり、読書をしたり、話をしたりと時間を過ごしていました。隣の大広間にはテレビがあり、丁度オリンピックの男子サッカーの決勝、女子バレーボールの決勝が行われており良い時間つぶしになりました。午前8時位にやっと町の担当者から説明がありました。芽登温泉まではなんとか行けそうだが、途中の道道の冠水がひどく、通行可能かどうかを確認中でありもう少し待つて欲しいとのことでした。ここで再度、水と非常食が配給され、その後はまたごろごろしたり、テレビを見たり話をしたりして過ごしましたが、避難所から見える川の水は黒く濁り勢いを増すばかりで、このままここでさらにもう一泊の不安な思いが頭をよぎりました。午前10時に追加の現状説明、お昼にはなんとか温泉地に戻れそう、その前に温かい食事を提供できるとのことでした（内心はほっとしましたが、待っている間に事態が悪くなるのではの思いもかなりありました）。12時になり、町より提供されたご飯と豚汁をいただき（有難うございました）、少し元気ももらった後に避難所をマイクロバスで出発。冠水した道路を避け迂回したために温泉には3時間程度かかり（迂回しなければ1時間で到着）、午後3時半に到着しました。宿の前の橋には枝や小石が転がり、川にはなお泥水が勢いよく流れており少しの間濁流を眺めていました。それぞれの車に乗り慎重に道道まで出た後、2時間ほどかけて足寄町の市街地まで戻ってきました。ここで、増田さんと吉川さんと別れ、道東道を西に移動して午後9時半に皆無事に札幌まで戻ってきました。家に着くと午後10時過ぎで丁度オリンピックの男子マラソンの最中でした。

道東はその後の台風10号により甚大な被害を受けまして、謹んでお見舞いを申し上げます。増田さん、吉川さんお世話になりました。また、参加された同窓生諸氏にとっては思い出に残る交流会となったと思います。出来れば芽登温泉もう一度きちんと泊まりたいなと思いました。

ありがとう牧場紹介（平成28年4月29日、酪農学園大学での講演から抜粋）

「牛は、人間には食べられない草を食べ、それを牛乳や肉に変えるというすばらしい能力があります。しかし、日本の酪農では、人間と競合する穀物飼料を一日あたり飼料総量の半分である10kgほど与えるのが普通です。私はそれに疑問を持ち、ニュージーランドでは穀物飼料を使わない放牧酪農をしていると知って、勉強するためにニュージーランドに渡りました。」と吉川友二さん(81期)は語ります。吉川さんは1994年から4年間、ニュージーランドで放牧酪農を学び、帰国後は足寄町で、放牧酪農の新規就農第1号として2000年に就農しました。現在は「ありがとう牧場」の100haの農地にホルスタイン種とブラウンスイス種の乳牛を通年放牧し、牛舎にはビニールハウスを使うなど低コスト・省力化の酪農経営を実現しています。また、放牧酪農の知識と経験を後続の新規就農者に伝える活動を行い、その結果、町内で放牧酪農に取り組む農家は増加しています。2013年には「しあわせチーズ工房」を立ち上げ、乳製品の製造販売という6次産業化にも積極的に取り組むなど、足寄町の地域活性化にも尽力しています。



〒089-3737 北海道足寄郡足寄町茂喜登牛98-4 吉川友二 TEL&FAX 0156-26-2082

チーズ作りの最中



作ったチーズを手にニコリ



手作りチーズ



ありがとう牧場の牛（移動中）



宴会の宴（この後避難指示）



増田さん（左）と吉川さん（右）



避難所にて（吉川さん、大谷さん）



21日、水煙を上げる濁流



21日、午後、温泉前



◆ 同窓会本部通信

(1) 28年度定時総会

平成28年5月28日（土）に定時総会が開催されました。

27年度の決算、理事20名・監事5名の選任の議案が審議・承認されました。また、27年度の公益目的支出計画の実施状況、28年度事業計画、28年度予算について報告、審議・承認されました。

総会後の理事会で、理事長に金子元昭氏（68期）副理事長に甲田英俊氏（72期）、北沢真澄氏（73期）、山越雅明氏（76期）が選任されました。顧問に笠原一洋氏（53期）、日置勇二氏（60期）、相談役に丸山正一氏（56期）が委嘱されました。



<総会会場風景>

(2) 上田高等学校同窓会ホームページの更新・公開

新理事長のご挨拶、組織で本部役員名簿を更新するとともに新たに代議員名簿の掲載、27年度決算書類の掲載をしました。

(3) 同窓会報「古城の門」第50号を8月1日付けで発行予定

50号記念として、創刊号なども掲載して同窓会報の歴史を特集します。

(4) 事務局の異動

3月31日付けで松本良治氏（66期）が事務局長を退任され、清水幸夫氏（70期）が着任しました。

(5) 社会講座が実施されます

上田高校では同窓生による社会講座を毎年実施していますが、今年は9月13日（火）に実施されます。14名の講師のうちお一人は北海道同窓会が推薦してくださった北澤多喜雄氏（73期）で、獣医学について講義をされる予定です。（講義内容は会報次号でご紹介します。）

◆ 年会費納入のご案内

4月に「第2回総会開催案内および年会費納入等のお願い」の文書を会員の皆さんに出した折に、同封すべき「年会費納入のご案内」文書を忘れてしまいました。お詫びしますとともにあらためて会報にて年会費納入のご案内をしますのでよろしくお願ひします。

会則にありますように、学生の身分の方および満80歳以上の方は会費が免除されています。それ以外の方は下記の方法により年会費1,000円を納入願ひます。なお、数年分を前納することもできます。

＜会費の納入方法＞

- (1) 会合時（総会、観楓会など）に持参する。
- (2) 現金書留により、同窓会事務局（〒067-0027 江別市豊幌美咲町34-8 北澤多喜雄）宛に郵送する。
- (3) 同窓会口座に振り込む。

① ゆうちょ銀行（郵便局）から

ゆうちょ銀行（郵便局）から会費を振り込む場合は、窓口ないしATMから次の記号等を記入（入力）して振り込んでください。

- ・記号 19060
- ・口座番号 52001671
- ・口座名 ウエダコウトウガッコウホッカイドウドウソウカイ

② ゆうちょ銀行以外から

ゆうちょ銀行以外の一般銀行や農協などから振り込む場合は、金融機関によって書式は様々ですが、「振込依頼書（ないしそれに相当する画面）」に以下のようなデータを記載（ないし入力）して振込を行ってください。

- ・振込先 ゆうちょ銀行
- ・店名 九〇八 （店番 908）
- ・預金種目 普通預金
- ・口座番号 5200167
- ・口座名 ウエダコウトウガッコウホッカイドウドウソウカイ

※納入にあたっては次の事にご留意ください。

申し訳ありませんが、郵送料・振込手数料は振込者にご負担いただくこととなります。「現金書留での郵送」や「ゆうちょ銀行の窓口から」あるいは「ゆうちょ銀行以外から」振り込む場合はそれなりの振込手数料が掛ります。その場合は、3～5年分の前納をお勧めします。（事務局でしっかり管理いたします。） なお、ゆうちょ口座をお持ちの方は、その口座を使って「ATMから振り込む」と手数料が掛りませんのでこの方法が最良かと思ひます。

◆ 編集後記

上田高校北海道同窓会の皆様いかがお過ごしでしょうか？事務局をやっております73期の北澤多喜雄です。交流会の記事にも書きましたが、道東(十勝)の会員を訪ねる交流会では宿泊先に避難指示がでて、避難所で一晩明かすという貴重な経験をしました。実は去年は仕事で山口に行き、やはり台風でほぼ一日ホテルに缶詰になるという体験をしています。今まで全く縁のなかった体験をこの2年続けて出来たこととなりますが、いろいろあるのが人生ですね。それはさておき今回の豪雨と台風が皆様に悪い影響を与えないことをお祈りいたします（20160915）。